

逞筆模試

第五回

三月四日

解答難度指数 1.81

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。①～⑩は音読み、⑪～⑳は訓読みである。

(30)
1×30

- ① 人栄えて蝸蝸沸羹たるを生ず。
- ② 自ら鬮腸の盈たし易きを愧ず。
- ③ 喟然として嘆息を漏らした。
- ④ 婦女は施髻し、縹緗の衣を纏う。
- ⑤ 吏民頗る其の愆急なるを畏る。
- ⑥ 大帝の暗噫叱咤に瘳瘳縮栗す。
- ⑦ 磴道万里、跟蹠僅かに痛む。
- ⑧ 南西の島嶼に鵝母が分布している。
- ⑨ 二十六聖人が磔刑に処せられた。
- ⑩ 刪潤を要する舛駁な詩稿だ。
- ⑪ 斯界の巨擘に頤頤する鳳雛である。
- ⑫ 夢笑嬌鬢を開き、眠鬢落花を圧す。
- ⑬ 乾鵲噪ぎて行人至る。
- ⑭ 將軍矍然たり、衆みな默然たり。
- ⑮ 雷霆を聞いて鳴弦暫輟す。
- ⑯ 衣は舛に至り袖腕に至る。
- ⑰ 駭たり、かの晨風。
- ⑱ 久しく大兵を屯し供費殫竭す。
- ⑳ 将家奕代碧眼紫髯の人なり。
- ㉑ 天下の柄を緇搦すべし。
- ㉒ 舟を備いて別墅を找ねる。
- ㉓ 襟劔りの汚れは目立つ。
- ㉔ 穴隙を鑽りて相窺う。
- ㉕ 珍羞を陶坏に堆く盛る。
- ㉖ 四瀆を撃汰して枵る。
- ㉗ 火鉢の前に蹲踞して手を煬る。
- ㉘ 朝夕我が眼を齧ぐ。
- ㉙ 西陲の戎客金革を褫とす。
- ㉚ 書を学ぶは急流に溺るが如し。
- ㉛ 種々葷菜の饒和えを頂く。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。㉜、㉝は国字で答えること。

(40)
2×20

- ① 神社でツイナの行事があった。
- ② 墓石と鮮やかなマンジュシヤゲ。
- ③ 青いソモウの靴下を履いた。
- ④ 読者シヨゲンシヨゲンの瀏覽に供す。
- ⑤ 更け行くオボロヨを嘆賞した。
- ⑥ 陣頭に二旒の鷲像トウバントウバンを立てる。
- ⑦ 稻株が育ってフングツしはじめた。
- ⑧ イナセイナセな若い衆が勢揃いした。
- ⑨ 甜言蜜語にボクボクされやすい。
- ⑩ ツチノエイヌツチノエイヌの年に政変があった。
- ⑪ 黒白も弁えないコウコウジコウコウジである。
- ⑫ イダテンイダテンのように駆け出した。
- ⑬ 青苧をウミ無聊を慰めた。
- ⑭ 全身をケイレケイレンンさせて着替えている。
- ⑮ ユウジョウユウジョウとして恭順の意を表す。
- ⑯ 陛下のユウジョウユウジョウを謹聴する。
- ⑰ 鉄と真鍮をロウロウ付けする。
- ⑱ ロウロウ長けた美女が端座していた。
- ⑲ 絨緞に菓かうダニダニを駆除する。
- ⑳ シンシシンシを張って布を乾す。

(三) 次の1～5の意味を的確に表す語を、次の□から選び、漢字で記せ。(10)
2×5

- ① 愛想笑いすること。
- ② 退位した君主が再び位につくこと。
- ③ 在家のまま仏門に入った女性。
- ④ 月が恒星を隠すことをいう。星食。
- ⑤ 古くからの言い伝え。伝説。

うばい・えんぺい・こうひ
しんぶん・ずだ・てんしよう
てんじ・ふくへき

(四) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1
次の四字熟語の(①～⑩)に入る適切な語を次の□から選び漢字二字で記せ。(20)
2×10

- | | |
|--------|--------|
| (①) 明珠 | 狗尾 (⑥) |
| (②) 北暢 | 冠履 (⑦) |
| (③) 玉匣 | 竜頭 (⑧) |
| (④) 塵中 | 鑿壁 (⑨) |
| (⑤) 充数 | 泥首 (⑩) |

かんぎよく・げきしゆ・しゆじゆ
ぞくちよう・とうこう
とうえき・なんこう・なんこう
よくい・らんう

問2
次の①～⑤の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10)
2×5

- ① 未熟者を重用する。
- ② 強情で負け惜しみの強いこと。
- ③ 大望の為に身を落とすたとえ。
- ④ 男子の生まれる予兆。
- ⑤ 心が清らかでわだかまりのないこと。

光風霽月・以杙為楹・雷陳膠漆
伊尹負鼎・熊羆入夢・枕流漱石
羊很狼貪・雍也論語

(五) 熟字訓・当て字の読みを記せ。

- | | |
|------|-------|
| ① 熨斗 | ⑥ 草烏頭 |
| ② 寸紗 | ⑦ 虎耳草 |
| ③ 豆娘 | ⑧ 山毛櫨 |
| ④ 海豚 | ⑨ 玉筋魚 |
| ⑤ 更衣 | ⑩ 金剛纂 |
- (10) 1×10

(七) 次の①～⑤の対義語、⑥～⑩の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。

- | | |
|-------|------|
| ① 終焉 | ⑥ 老弱 |
| ② 泣血 | ⑦ 烏鷺 |
| ③ 玉響 | ⑧ 御食 |
| ④ 無始 | ⑨ 突鼻 |
| ⑤ 伊達着 | ⑩ 汪然 |
- (20) 2×10

(八) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分で漢字で記せ。

- ① **ラツキヨウ**の皮を剥くよう。
- ② 驥驥の**キヨクチヨク**するは
駑馬の安歩に如かず。
- ③ **ウチクルフシ**は蚊に食われても悪い。
- ④ 人の**コボウ**で法事する。
- ⑤ 富貴何ぞ如かんや**ソウトウ**の露。
- ⑥ **燭バツ**を見さず。
- ⑦ **チグ**の縁。
- ⑧ 大国を治むるには**シヨウセン**を烹るが若くす。
- ⑨ 鼠穴を治めて**リリヨ**を壊る。
- ⑩ 離朱が明も**シヨウジヨウ**の塵を視る能わず。
- (20) 2×10

(六) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

- ア ① 撩戦…② 撩む
- イ ③ 倣載…④ 倣める
- ウ ⑤ 籠罩…⑥ 罩める
- エ ⑦ 翫悒…⑧ 悒る
- オ ⑨ 牖民…⑩ 牖く
- (10) 1×10

(九) 文章中の傍線(1.～10.)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

A 嘉仁、謹みて皇考の靈前に**ア**自す。皇考の**トウカ**し給いしより、夙夜夢寐、温容を**ア**護る能わず、櫛宮に殯殿に奉饗拝参して、空しく靈前に感泣すること早四十余日。今や伏見桃山に斂葬せむとし、**イ**輜車を送りて此に來れり。顧うに曩に皇考の病革まるや、上下**ユウグ**して天地に祈るあり、茲に其の葬儀を行うや、**ウ**チヨウヤ悲傷して已まざ。是皆国民**ウ**慰悵の発露する所にして、即ち、皇考徳沢の**カ**カンフする所なり。此を思い彼を念い、痛悼の情倍倍切なり。嗚呼哀しい哉。

(30) 2×10 1×10

B 乾坤持ち施して、**ホク**載の徳以て深く、皇王至公にして、亭毒の仁斯に広し。然れば則ち、南面に居る者は、必ず天に代わって化を闢き、**ホク**クシンに儀る者は、亦時に順い、以て**エ**溷育すべし。是を以て朕京城を巡り、遙かに郊野を望むに、芳春の仲月、草木滋り榮え、東候始めて啓け、丁壮**ロウホ**の勉めに就き、時雨漸く澍い、蟄蟲、浴灌の悦びあり。何ぞ寛仁を流しき、以て**レイ**ケンを安んじ、淳化を布きて万物を済わざらんや。宜しく戸頭の百姓に、種子各々二斛、布一常、鍬一口を給し、農蚕の家をして、永く業を失うことなく、**オ**畜字の徒をして、専ら私を忘れしむべし。

(大日本詔勅謹解「農蚕を勉むるの詔」より)

C 人類億兆、**カ**坤輿を劃して各々拠有する所あり。曰く其の国家、某の国家と、時には則ち相軋し、相争奪し、時には即ち相謀虐酷遇攻伐殺戮す。其の状や仁人君子の視るに忍びざる所の者ありと雖も、豈知らんや、此の如き不祥惨憺の現象も亦かの円満幸福に達するの駈程たり、舟筏たるを、其の相**キ**剋殺する所以は、即ち相磨礪して大いに潜光を発する所以なり。国家を成す者多し、彼皆各々其の特能を尽くして其の特能を秀絶せしむるの任務を負うて而して立てり。今や欧米諸国の勢力強勢にして、向う所前なく、日月に波及して殆ど將に**ケ**寰宇を挙げて氾濫の中に没せんとす、没す、則ち其の旧の特色を**ハ**ピンメツして、其の自らの特能を伸ぶるあるのみ。是所謂真を極め、善を極め、美を極むる所以に於いて、果たして損傷する所なしとする乎。(…中略…) 輕薄女子あり、輕薄男子戯れに之を謂いて曰く、卿が**ヨウ**シヨク天下に類なからん、仮令然らずとするも、温平たる卿が目、藹平たる卿が眉、世間豈多く其の類を見るべけんやと。一片の賛辞忽ち女子の心を宇宙に飛ばし、得意揚々、自ら以て絶世の美人となし、メツキの**ケ**鍬を挿み、**メ**メツキの指輪を飾り、衣帯はなるべく人の指目に留むべきものを欲し、故に言語を装うて優美の風を示さんとし、故に歩行をしなやかにして人の**カ**顧盼を得んと欲す。

(三宅雪嶺「祖国の姿」より)